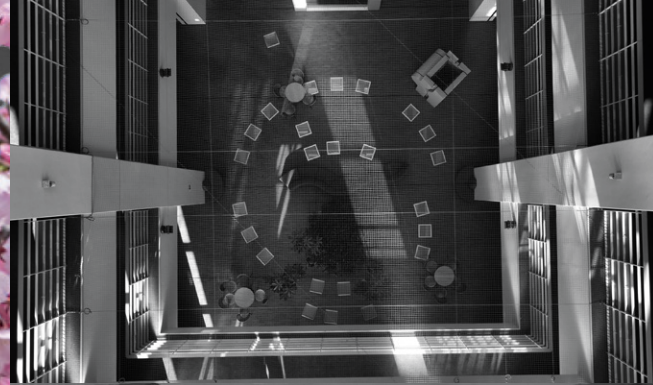


Kyushu University
AT A GLANCE
Fast Facts & Highlights 2025-2026
Japanese Edition



Kyushu University

スマートシティ福岡に位置する総合大学

1911年に創立された九州大学は、福岡を拠点とする基幹研究型大学であり、学術および社会に長年貢献してきました。2011年に創立100周年を迎えて以来、本学は新たな100年に入り、国内外でより大きな社会的影響を生み出すことにあらためて取り組んでいます。

空港アクセス時間の短さ



1位

空港から都心部まで
最短5分



生活費の安さ

1位

国内主要都市で
消費者物価が最安



国内5大都市*のひとつ

*札幌、東京、名古屋、
大阪、福岡



自然と都市・ 海と山が隣接



History

2021年11月 指定国立大学法人に指定

2018年9月 伊都キャンパスへの統合移転完了

2004年4月 国立大学法人化

2003年10月 九州芸術工科大学と統合

1949年5月 新制九州大学発足

1911年1月 九州帝国大学創立

1903年4月 京都帝国大学福岡医科大学創立

Campus overview

特色を持つ4つのキャンパス

九州大学は4つの主要キャンパスを有し、それぞれが教育と研究の拠点として役割を果たしています。4キャンパスが連携することで、多様で学際的な学びと研究を支える基盤が形成されています。

伊都キャンパス



総合科学の中枢

九州大学は、2005年から2018年にかけて本部機能を箱崎から伊都へ移転しました。現在、約18,000人が学ぶ伊都キャンパスは、自然環境に恵まれた総合研究拠点であり、水素・燃料電池研究の先進的な取り組みで知られ、持続可能な未来社会のモデルを提示しています。

病院キャンパス



生命医療科学の拠点

病院キャンパスは、教育・研究・診療の拠点として機能しており、九州大学病院を擁しています。同病院は将来の医療人材を育成するとともに高度医療を提供しており、1995年から特定機能病院に指定されています。また、大分県に九州大学病院 別府病院を設置しています。

大橋キャンパス



先端的デザインの拠点

大橋キャンパスは、芸術的表現と科学技術を融合したデザイン教育・研究の拠点です。2003年に九州芸術工科大学との統合により設置された芸術工学部が置かれています。

筑紫キャンパス



先端科学の融合拠点

筑紫キャンパスは、多様な先端研究施設を備え、物質・環境・エネルギーを統合的に扱う研究に重点を置く教育研究拠点です。学部を持たない独立した大学院である総合理工学府が設置されています。

Kyushu University VISION 2030

福岡から世界へ： 総合知で社会変革を牽引

アジアへのイノベーション・ゲートウェイ

福岡は、日本の主要都市の中でアジア地域に最も近く、東アジアおよび東南アジアとの優れたアクセス性を有しています。この地理的優位性により、九州大学は、人材・知識・アイデアが国境を越えて活発に行き交うアジアへのイノベーション・ゲートウェイとなっています。福岡を起点として、連携はコンセプトからパートナーシップへ、パイロットプロジェクトから地域連携へとシームレスに展開し、九州大学がアジアの活力あるイノベーション・エコシステムと結びつくことを可能にします。

九州大学の役割

九州大学は、日本屈指の教育研究機関の一つであり、2021年に国のイノベーション創出と国際展開を担う限られた大学に与えられる「指定国立大学法人」に指定されました。福岡という立地を生かし、「学際・超学際エネルギー研究」と「アジア・オセアニア研究」の2つの中核的プラットフォームを推進しています。これらのプラットフォームを通じて、国境を越える複雑な課題に取り組んでいます。さらに、九州・沖縄地域の11大学と連携し、地域の強みをアジアおよび世界へと結びつけるオープンイノベーション・エコシステムの構築を主導しています。



知を社会的価値へ： 総合知 × 3つのアプローチ

本学は知を創出するだけでなく、それを課題解決へとつなげます。本学の取り組みは、次の5分野を融合し、社会変革を生み出す原動力としています。

- ・理工系
- ・デザイン系
- ・医療・生命系
- ・人社系
- ・数学・情報系

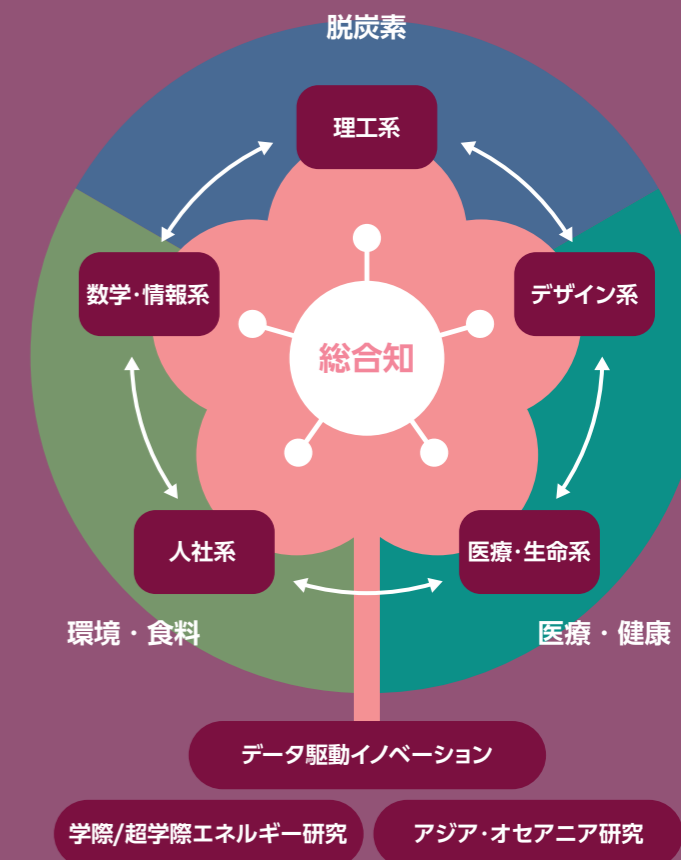
デジタルトランスフォーメーション (DX) を基盤として、「脱炭素」「医療・健康」「環境・食料」という3つの地球規模課題に取り組んでいます。

クリーンエネルギーの革新から健康寿命の延伸、強靱な食料システムの構築まで、研究成果を社会的価値へと迅速かつ効果的に結びつけています。

2030年に向けた約束

2030年までに、世界水準の研究・教育を実現し、国際的な人材を惹きつけ育成するとともに、福岡とアジア、そして世界を結ぶイノベーション・エコシステムの中核となります。

未来社会デザイン





学生・学修環境

学生総数 **18,813**名
 学部生 11,687名
 大学院生 7,126名

教員数 **2,182**名
 うち外国籍教員151名

9人の学生に
 1人の教員

12 学部
 19 学府

21の
 ダブルディグリー
 プログラム
 2つの
 ジョイントディグリー
 プログラム

単一キャンパスで日本最大面積
 272万km²

世界 **67** 位
 — THE 学際科学ランキング2026

国際連携

国際連携はKyushu University VISION 2030の重要な柱です。本学は、国際的な視野を持つ学生を育成するため留学を積極的に推進するとともに、世界各地の大学との強固な連携により双方向の国際交流を進めています。学生の国際的な往来と共同教育・研究を結びつけることで、国際社会への貢献を一層強化しています。



海外留学人数 (2024/3/31 現在)

現在 **2,105**名
 2021年度(636名)から **+1,469**↑

留学生受入人数

現在 **2,760**名
 目標: **3,200**名
 2021年度(2,389名)から **+371**↑

パートナーシップ

81の
 国・地域へ留学
106の
 国・地域から九大へ留学

協定締結機関

314の
 協定締結機関

これらの機関では、学部生および大学院生は九州大学に在籍したまま、受入先機関に授業料を支払うことなく最長1年間留学することができます。

留学生の割合 **14%**
 7人に1人が留学生
 2,760名
 全学生 18,813名

海外オフィス



ストックホルム・リエゾンオフィス(スウェーデン)

常勤の事務職員が駐在する唯一の海外拠点

ストックホルム・リエゾンオフィスは、九州大学の欧州における拠点として機能しています。「コンシェルジュ」としての役割を担い、九州大学と欧州の連携機関との戦略的な取り組みを積極的に推進しています。

また、日本学術振興会海外研究連絡センター や在外公館など、現地の関係機関とも緊密に連携しています。

主な支援分野は次のとおりです。

- ・学術・研究連携
 (例) カロリンスカ研究所との学生交流プログラム、MIRAI若手研究者プログラム
- ・国際大学ネットワーク
 (例) MIRAI(日本・スウェーデン連携)、RENKEI(日本・英国連携)
- ・交流・情報発信
 (例) 欧州機関とのシンポジウム・ウェビナー、欧州同窓会ネットワーク、日欧を結ぶ学術交流ネットワーク(Fika-JA)
- ・欧州における共同研究および外部資金獲得支援
 (例) フランス国立科学研究センター(CNRS)との連携: CNRSと九州大学は、2026年に国際共同研究所 IRL OPHELIAを設立しました。

Fast Facts

研究・教育の多様性

九州大学は、構成員の多様な背景やキャリアを広げるとともに、ガバナンスを強化し、革新的な意思決定能力を高めることで、研究・教育の多様性を推進しています。九大OIP株式会社は、国際連携や産学連携、グローバル人材の活用、ならびに大学経営を支える戦略的知見の提供を通じて、この変革を加速させています。これらの取り組みにより、多様な研究者が活躍し、新たな価値を創出できる環境を整えています。

エントリポイント:最優先課題

九州大学の最優先事項は、「エントリポイント」として焦点を当てた以下の3つの分野における社会的課題の解決です。



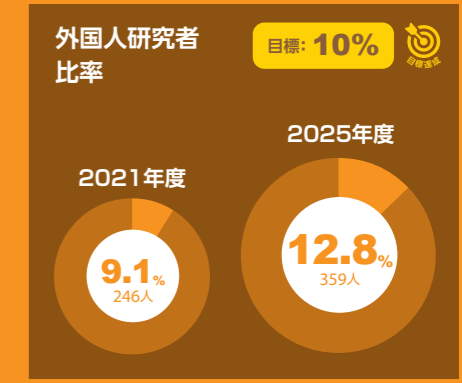
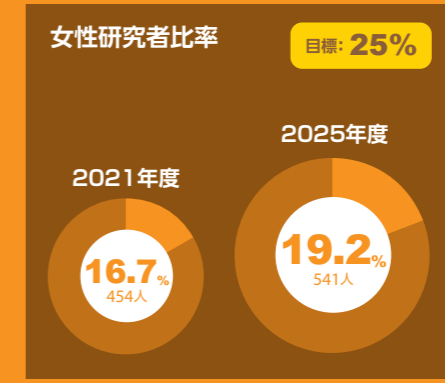
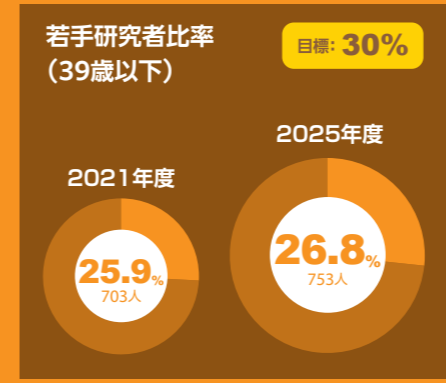
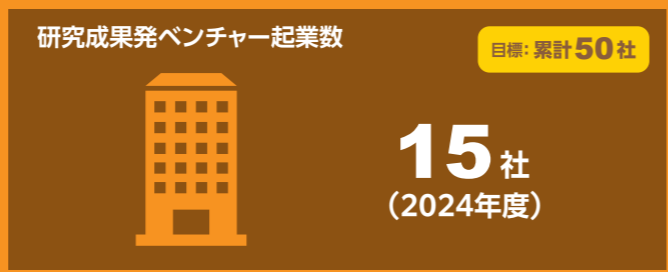
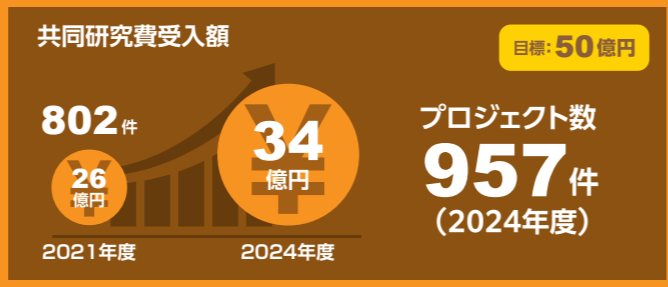
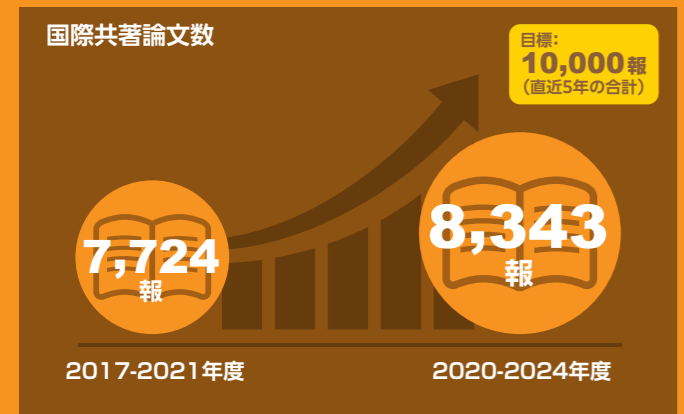
脱炭素



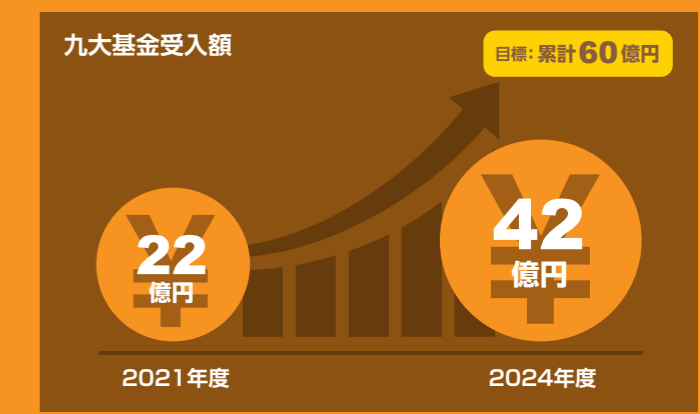
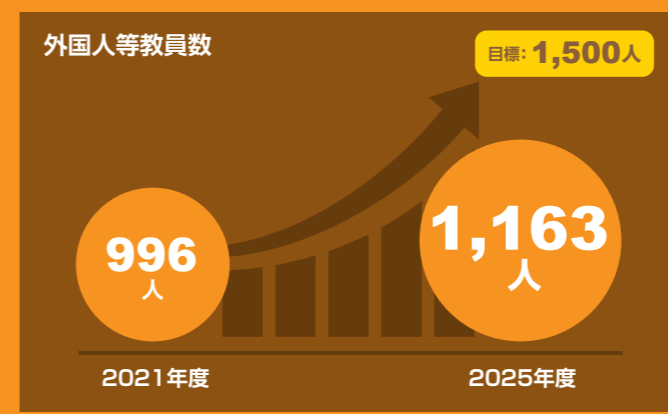
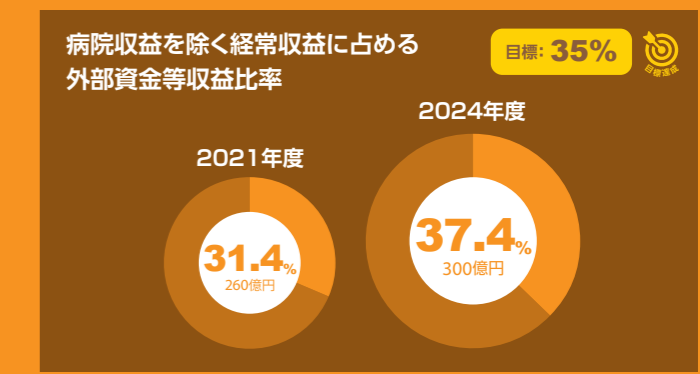
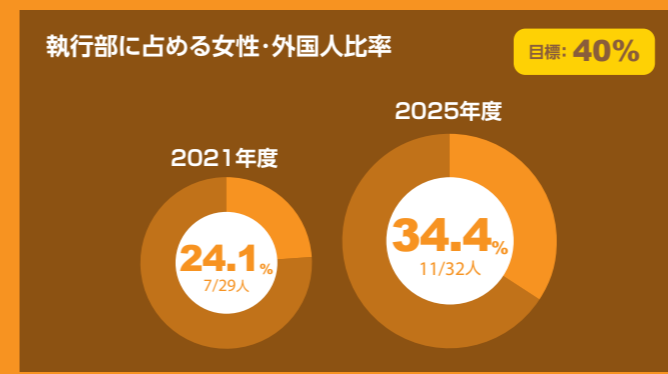
医療・健康



環境・食料



※数値は研究者総数に基づく(2021年度:2,713名、2025年度:2,812名)。



University in the Community

九州大学は、教育の充実や研究支援、学外との連携を促進する多様な資源とサービスを提供することで、地域社会と積極的に関わっています。これらの取り組みは、学生および地域社会の双方にとって有益であり、社会の発展に貢献しています。



附属図書館

所蔵点数 **425** 万点

- ・世界水準の学術研究を支える蔵書
- ・創造性と新たな発想を育むオープンスペース
- ・主体的な学習を促す環境

(2025/3/31現在)

総合研究博物館

所蔵点数 **750** 万点以上

総合研究博物館および関連施設では、400万点を超える世界有数規模の昆虫標本をはじめとする貴重なコレクションを保管しています。

九州大学病院

病床数 **1,372** 床

- ・国際化認証 (JIMP) 取得
- ・Quality Achievements Award 2023 (ESQR) 受賞
- ・World's Best Hospitals 2024 (Newsweek) 選出

(2025/3/31現在)

演習林

総面積 **7,145** ha

北海道、宮崎、福岡に所在する大学演習林は、研究および教育の重要な実践の場として機能する貴重な資産です。

住居・宿舎

留学生向け学生寮

9 施設

外国人研究者向け宿舎

5 施設

留学生が日本人学生とともに生活できる学内宿舎を提供しています。さらに、学外にもさまざまな住居選択肢があります。また、外国人研究者向け宿舎も整備しており、招聘研究者の生活を支援しています。



環太平洋地域の**64**大学

APRU (環太平洋大学協会) は、有識者、研究者、政策立案者が意見交換を行い、21世紀の課題に対する実践的な解決策を共有・協働するためのネットワークです。このネットワークにおいて、九州大学は、学長級対話への積極的な参加や、SDG4GCプログラムなどの教育プログラムへの学生参加を通じて、強い存在感を示しています。2025年には、九州大学の学生3名がSDG4GCプログラムに参加し、APRUの教育活動への貢献をさらに強化しました。

森林生態系リビングラボ・イニシアチブ(FELLI)

APRUの取り組みの一つである森林生態系リビングラボ・イニシアチブ (FELLI) は、2024年に開始され、持続可能な森林管理、生物多様性保全、気候変動への適応、人と自然の共生を推進する森林リビングラボを通じて加盟大学を結ぶ大規模な新規事業です。共同研究、学生の参画、政策対話を通じて、社会および環境に具体的な成果をもたらすことを目的としています。

九州大学は、森林研究における強みが評価され、本イニシアチブの主要メンバー校として選ばれ、本事業において主導的な役割を担っています。2025年10月には、エクアドルのサンフランシスコ・デ・キト大学が主催したFELLIワークショップに参加し、加盟大学間で森林生態系の課題解決に向けた具体的戦略について議論しました。このような活動を通じて、九州大学はAPRUネットワーク内で持続可能な森林研究と国際連携を推進し続けています。



スウェーデンと日本の**17**大学

MIRAIは、長期的な研究連携の促進と研究力の向上を目的とした日本とスウェーデンの大学ネットワークです。2024年1月に第3期 (2024~2026年) へ移行し、九州大学は日本側加盟大学の幹事校として主導的な役割を担っています。この立場を生かし、MIRAI Global Challenges Internshipを主導するとともに、2026年12月には大規模会議「R&I Week」を開催予定です。

ヨーテボリで開催されたMIRAI Global Challenges Internship(スタディビジット)プログラム

2025年11月にヨーテボリでMIRAI Global Challenges Internshipが開催され、日本とスウェーデンの12大学から若手研究者および博士課程学生15名が参加し、そのうち2名は九州大学の学生でした。本プログラムは九州大学ストックホルム・リエゾンオフィスが主導し、スカンジナビア・ニッポン ササカフ財団の支援のもとヨーテボリ大学と共同で実施され、地球規模課題に関する産学連携を促進しました。



英国と日本の**11**大学

RENKEIは、英国と日本の研究連携を推進する先進的な枠組みであり、特に気候変動や健康の分野における多国間・学際的な協力を促進しています。九州大学は、2012年のRENKEI設立当初から積極的に参画してきました。その取り組みの一環として、本学は2024年12月に、気候変動およびエネルギーをテーマとしたRENKEI研究者向け対面ワークショップを開催しました。

日英協働で推進する「公正な移行(Just Transition)」

九州大学で開催されたワークショップの成果を踏まえ、2025年5月にはダラム大学およびニューカッスル大学が共同で「Transitions in Northeast England Day」および「Just Transitions to a Net Zero World」の2つのフォローアップイベントを実施しました。本学からは、副理事、教員、学生、ならびにストックホルム・リエゾンオフィス職員の計4名が参加し、日英協働による「公正な移行」のさらなる推進に向けた議論を深めました。

Strategic Partnership

九州大学は、VISION 2030に基づき、大学間連携を通じて国際的人材循環の拠点となることを目指しています。このビジョンを実現するため、世界各地のパートナー機関との広範なネットワークを基盤に、特定の大学との教育・研究連携を強化する戦略的パートナーシップを構築しています。



イリノイ大学 アーバナ・シャンペーン校

戦略的パートナーシップ (2019年～)

イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校 (UIUC) は、2019年8月に相互確認を経て九州大学初の戦略的パートナーとなりました。それ以来、両大学は連携強化に積極的に取り組んでいます。具体的には、重点研究分野への資金支援、大学執行部および教員レベルでの対話の促進、ならびに学生および事務職員の交流推進などを行っています。

国立台湾大学

戦略的パートナーシップ (2023年～)

2023年9月、国立台湾大学 (NTU) は、九州大学の2校目の戦略的パートナーとなりました。この連携は、2023年の九州大学学位記授与式においてNTU総長が来学し講演を行った際に正式に締結されました。その後、両大学は、特に学生交流の拡充を中心として交流の深化と拡大を図ることを目的に、戦略的パートナーシップ協定を締結しました。

ソウル大学校

重要パートナー校 (2019年～)

2019年11月以来、九州大学とソウル大学校 (SNU) は相互の重要性を確認し、連携強化への意思を共有しています。その第一歩として、2020年に第1回の合同シンポジウムを開催しました。その後も連携は着実に発展し、2025年11月には九州大学が合同シンポジウムの主催校を務めました。現在、両大学は次回のシンポジウム開催に向けて準備を進めており、さらなる連携強化について議論する予定です。

UNIQ (国立台湾大学、イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校、九州大学)

戦略的パートナーとしての強固な連携実績を基盤に、UIUC、NTU、九州大学は、三大学連携センターを共同設立し、2024年2月にNTUIにおけるMoU調印式をもって正式に発足しました。研究を中心とした国際連携をさらに拡大・深化させるため、2024年11月にUIUCでワークショップおよび会合を開催しました。2025年3月には、九州大学がUNIQ三大学連携ワークショップを主催し、三大学間の学術交流を強化しました。続いて7月にはUNIQ三大学連携シードファンディングを開始し、7件のプロジェクトが採択されました。これらの取り組みは、研究者ネットワークの拡大と三大学連携の強化を目的としています。今後は、2026年にNTUで追加のワークショップおよび関連会合を開催する予定であり、戦略的連携のさらなる発展を目指します。





KYUSHU
UNIVERSITY

日本語版

国立大学法人九州大学
企画部企画課分析係・IR室

〒819-0395 福岡市西区元岡744
TEL 092-802-2145
<https://www3.ir.kyushu-u.ac.jp/>



九州大学 Webサイト
www.kyushu-u.ac.jp/ja/



データで見る九州大学
www.kyushu-u.ac.jp/ja/university/data/



九州大学国際部
Global Gateways
www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/



INVITATION to Kyushu University
isc.kyushu-u.ac.jp/invitation/ja/

